

会 議 録

1 会議名

令和8年度第5回三和区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告事項（公開）

- ・市民の消火栓使用について

（2）自主的な審議（公開）

- ・三和の自然環境を守りながら、持続可能な農業を目指す取組について
- ・地域コミュニティを維持するための仕組みづくりについて

（3）その他（公開）

3 開催日時

令和8年8月24日（月）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

三和コミュニティプラザ 3階 多目的ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：高橋（鉄）委員（会長）、龍池委員（副会長）、五十嵐委員、池田委員、江口委員、高橋委員、星野委員、牧井委員、松井委員、松栄委員、宮澤委員、宮嶋委員、茂木委員、渡邊委員
- ・事務局：三和区総合事務所 丸田所長、小山次長、佐藤市民生活・福祉グループ兼教育・文化グループ長、江口地域振興班長、藤澤班長
防災危機管理部 五十嵐部長、危機管理課 竹内課長

8 発言の内容（要旨）

【議題：市民の消火栓使用について】

■ 危機管理課が説明

- ・市民による消火栓使用に関するこれまでの経緯について説明があった。
- ・令和2年度以降、市は一般市民による消火栓使用は危険であるとして使用できないと

の考え方を示してきたが、市民が消火栓を使用することを規制する法令がないことや議会での議論を踏まえ、安全対策を講じた上で使用できることとした。

- ・消火栓の使用に当たっては、町内会又は自主防災組織を実施主体として年1回以上の消火訓練を実施し、複数人で対応すること、消防資機材の調達・管理・点検を行うことなどの留意事項が示された。
- ・市は市民による消火栓使用を推奨するものではなく、安全対策を講じた場合に限り認めるものであることが説明された。
- ・消火訓練実施までの流れとして、市への事前相談、消防資機材の準備、自主防災訓練等実施計画書や消火栓等使用申請書の提出などの手続きが示された。
- ・消防資機材の整備及び管理は町内会等の責任で行うこととし、市による補助制度は設けない方針が説明された。
- ・火災現場で協力した市民に対する災害補償制度や、自主防災訓練に係る災害補償制度について説明があった。

■ 質疑応答

- ・質問／意見：市民が使用することを想定するなら、糸魚川市で導入している40ミリホースなど、より扱いやすい設備についても検討すべきではないか。
回答：40ミリホースについては実際に視察を行い調査している。扱いやすさという利点はあるが、65ミリホースと比較すると消火能力に違いがある。導入は各町内会の判断で行ってほしい。
- ・質問／意見：消火栓を活用する場合のホースやノズルなどの資機材更新費用は、すべて町内会負担となるのか。
回答：資機材は町内会又は自主防災組織で準備していただくことを想定しており、市として補助制度は予定していない。
- ・質問／意見：災害補償制度に年齢制限はあるのか。また、高齢化が進む中で実際に活動できる人材確保は難しいのではないか。
回答：年齢制限はない。ただし、訓練や安全対策を講じた上で活動していただくことを前提としている。
- ・質問／意見：保険適用の要件や必要となる装備が明確になっていない。ヘルメットや手袋などを着用していなかった場合の補償の取扱いを整理すべきではないか。
回答：保険適用にあたり、装備品の詳細な基準はないが、事故発生時の取扱いについては保険会社等へ確認しながら整理したい。委員からの意見も踏まえ検討していく。
- ・質問／意見：「訓練を受けた者」が活動するとあるが、誰が訓練を行い、どのような状態であれば訓練を受けた者とみなされるのかが不明確である。
回答：町内会又は自主防災組織が主体となって行う訓練に参加した人を想定している。理想的には訓練経験者が中心となり活動することを考えている。
- ・質問／意見：資機材整備に対する補助制度はないとのことだが、自主防災組織向けの

補助制度で対象として扱う考えはないのか。

回答：現在実施している自主防災組織向け補助制度は避難対策などを対象としており、今回の消防資機材は対象外としている。

- ・質問／意見：申請書を提出してから訓練実施まで、どの程度の期間を見込めばよいのか。

回答：各種申請は実施予定日の概ね2週間前までの提出をお願いしており、市としては10日程度を目安に対応したいと考えている。

- ・質問／意見：保険の適用要件として一定の装備が必要となるなら、市として最低限必要な装備を示し、補助制度についても検討すべきではないか。

回答：一般市民にどこまで求めるかも含め今後整理したい。保険適用条件について確認しながら対応していく。

- ・質問／意見：消防局と消防団では知識や技能に差がある。消防団からの助言だけで十分なのか。

回答：消防団は地域事情に詳しく身近な相談先として重要である。必要に応じて消防局や市とも連携しながら対応していく。

- ・質問／意見：消防資機材の管理や点検が消防団任せになることを懸念している。また、機材一式の導入費用の目安はどの程度か。

回答：町内会自らが資機材の状況を把握し管理する必要がある。費用は資機材構成によって異なるが、以前確認した際は、40mmホースと筒先等のセットで約10万円程度と聞いている。

- ・質問／意見：消防隊到着までに火災が拡大する可能性があるため、初期消火ができる体制整備や機材導入補助を検討してほしい。

回答：初期消火は重要であるが、安全確保が最優先である。消火器や水バケツなどによる初期対応も有効であり、現時点で資機材への補助制度は予定していない。

【自主的審議：A：三和の自然環境を守りながら、持続可能な農業を目指す取組について】

■ Aグループの協議概要

- ・Aグループから、自然環境を守りながら持続可能な農業を目指す取組の一環として計画している「まるごと味覚祭」について報告があった。
- ・8月5日に開催した意見交換会には14団体が参加し、地域協議会会長及びAグループ委員、事務局も出席した。
- ・意見交換会では、これまでの経過説明のほか、イベントの目的、実施内容、チラシやポスターによる周知方法について説明を行った。
- ・参加団体との意見交換では、趣旨に賛同し積極的に協力したいという意見がある一方で、実施内容や運営方法について様々な要望や提案も寄せられた。
- ・現在、寄せられた意見を整理しながらイベント内容の詳細を検討していることが報告された。
- ・イベントポスターが完成したため、委員へ紹介があった。

- ・会長から、今回の取組は地域協議会委員全員が実行委員として関わる形で進めたいとの説明があった。

■ 質疑応答

- ・質問／意見：10月25日のイベント当日に、町内で実施する収穫祭と日程が重なっている。意見交換会ではジャンボカボチャの提供について話題があったが、調整状況はどうなっているのか。

回答：関係町内会と協議した結果、イベント会場には最も大きなジャンボカボチャを展示用として提供いただくこととなった。地域で栽培したカボチャを活用しながら双方のイベントがうまくいくよう協力体制を取る。

【自主的審議：B：地域コミュニティを維持するための仕組みづくりについて】

■ Bグループの協議概要

- ・地域コミュニティの維持や活性化について検討を進める中で、地域住民が主体的に取り組みたいと思う仕掛けづくりが重要であるとの意見があった。
- ・過去に三和地域で制作された地域映像資料が残されていることから、これらをDVD等にまとめ、地域の集まりや交流会の場で上映し、地域の歴史や活動への関心を高める取組を検討していることが説明された。
- ・地域行事の縮小や担い手不足が進む中、過去の活動を振り返ることで住民の地域活動への参加意欲を喚起したいとの考えが示された。
- ・地域住民の中には、様々な分野で知識や技術を持つ人材がいることから、講師や話題提供者としてまとめ、地域から要請があった場合に、紹介できる仕組みづくりについても検討していることが説明された。

■ 質疑応答

- ・質問／意見：映像資料を活用する場合は、すべてをそのまま使用するのではなく、地域づくりや歴史継承に資する内容を十分に精査すべきではないか。

回答：今後、映像内容を確認しながら、地域振興や交流促進につながる内容を選定して活用方法を検討する。

- ・質問／意見：地域の歴史資料や記録映像は貴重であるため、単なる懐古的な利用だけではなく、今後の地域活動につながる形で活用してほしい。

回答：地域活動のきっかけづくりや住民意識の醸成につながるよう活用方法を検討していく。

【その他】

■ 事務局より説明

(地域協議会会議録について)

- ・地域協議会会議録の作成方法について説明があった。市では、市民にとって分かりやすく迅速な公開と、職員の会議録作成及び確認作業の負担軽減を目的に、AIを活用

した要約方式による会議録作成を原則としている。

- ・従来は発言者氏名や発言内容を逐語的に掲載していたが、現在は説明内容や質疑応答をA Iで要約し、必要に応じて加筆修正を行う方式に変更していることが説明された。
- ・委員から詳細な内容を掲載してほしいとの意見があったことから、参考として標準版と詳細版の会議録を作成した。
- ・詳細版でお願いしたいとの意見があり、今後の会議録は詳細版の会議録とする。

(旧米の謎蔵及び米本陣の改築工事の進捗について)

- ・事務局から、旧謎倉及び旧米本陣において株式会社アグリケアが進めている改築工事について報告があった。両施設とも6月に工事に着手しており、12月の工事完了、翌年3月の引渡しに向けて順調に進捗している。

(三和区多世代交流プレイス設置検討委員会について)

- ・多世代交流プレイス設置検討委員会について報告があり、8月20日に第1回会議を開催し、設置に至った経緯や目的の説明の後、グループに分かれて意見交換を行った。
- ・意見交換では、子育て、高齢者福祉、地域活動など様々な立場から意見が出され、施設を一箇所に設置した場合の送迎や交通手段の確保が課題として挙げられた。
- ・また、三和区には既に様々な団体が活動していることから、新たな施設を設置する意義や既存団体との連携の必要性について意見が出された。
- ・今後、柿崎区の視察を含め年度内に4回程度の会議を開催し、多世代交流プレイスの方向性を検討していく予定である。

■ 質疑応答

- ・質問／意見：多世代交流プレイス設置検討委員会について、「方針決定する日まで」という表現になっているが、年度内に結論が出ない場合は委員任期が延長される可能性があるのか。また、PTA等から選出された委員が途中で交代しないよう配慮してほしい。

回答：年度末までに方向性を決定する予定であり、できるだけ今年度中に結論を出したいと考えている。

- ・質問／意見：多世代交流プレイス設置検討委員会は公開で実施し、市民が傍聴できるようにしてほしい。

回答：隠すべき内容はないと考えており、公開を前提に検討したい。

(地域協議会勉強会について)

- ・地域協議会勉強会について、講師の日程調整の結果、11月28日に上越教育大学の教授を講師として防災に関する講演会を実施する予定である。

■ 委員長より説明

(地域協議会会長会議について)

- ・ 8月17日に開催された地域協議会会長会議が市民プラザで開催された。
- ・ 新たな地域独自予算制度及び地域運営組織支援制度について説明を受け、制度内容や予算配分等は市長記者会見において公表予定とのことだった。
- ・ 事務局から補足説明があり、市長記者会見は翌日に予定されており、その中で制度名称や予算枠などが示される予定である。

【事務連絡】

- ・ 次回の地域協議会：9月30日（水）午後6時30分～

9 問合せ先

三和区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-532-2323（内線 215）

E-mail:sanwa-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。